

平成12年7月10日

『一般用医薬品データベースセンター』設立趣意書

一般用医薬品データベースセンター

設立発起人代表 上原 明

小林 豊

21世紀を目前にし、高度情報化社会への移行は目ざましく、特にインターネットを中心とした情報技術（IT）の進展は、企業の経営にも大きな影響を与えるものと考えられます。しかしながら、従来の情報化はともすれば、特定事業者間での垂直的・閉鎖的なものとなりやすく、社会全体でみた場合、往々にして重複した投資になることが指摘されてきたところであります。

このような状況を背景に、平成10年8月より、中小企業庁・補助事業「中小小売業商品データベース整備事業」の一環として、一般用医薬品業界の製・配・販3層の委員からなる委員会が組織され、『一般用医薬品データベース』の開発が行われてまいりました。

この『一般用医薬品データベース』は、一般用医薬品業界共通のインフラとして、一般用医薬品等に関する基本的な商品情報をメーカーがインターネット上に登録し、小売業・卸売業等が広く必要情報を検索・ダウンロードして利用するものであります。このように情報を一元化、共有化することにより、業界全体としての社会的コストのミニマム化がはかれると同時に、今後予測される取引電子化の推進にも大きく寄与するものと確信する次第であります。

私ども発起人一同は、このような認識のもとに『一般用医薬品データベースセンター』を設立し、業界有志のご協力の下に、当業界のインフラとしてのデータベース事業を推進しようとするものであります。

ここでは、商品情報の収集・管理・提供を行うとともに、それにとまなうルール等の標準化を行い、さらには他業界のデータベース等と相互に交流をはかることも計画しております。これによって、個々の企業が従来負担していた商品情報データベース作成及び情報化のためのソフト開発・システム開発に要する費用を、業界全体の力で大幅に軽減し、もって社会的コストの低減を図ろうとするものであります。

以上、趣旨をご理解の上、ご賛同賜りたくお願い申し上げます。

※ 「一般用医薬品データベースセンター」は、掲載する商品分野の拡大にあわせて、平成15年11月1日より、団体名称を「セルフメディケーション・データベースセンター」と変更いたしました。